

敬語の種類

- ① 尊敬語：動作主体（主語）に対して敬意を表す。
- ② 謙讓語：動作対象人物（動作を受け取る人・目的語）に対して敬意を表す。
- ③ 丁寧語：その話を聞いている人（読者）に対して敬意を表す。

攻略ポイント

- ① 二方面の敬語：謙讓語＋尊敬語
↓それぞれの敬語が別の人を高めるから「二方面の敬語」という。

※違う種類の敬語が接続する場合には、必ず「謙讓語＋尊敬語＋丁寧語」の順になる。

- ② 最高敬語（二重敬語）：「せ給ふ」「させ給ふ」「せおはします」「させおはします」など、尊敬語を重ねて使う。

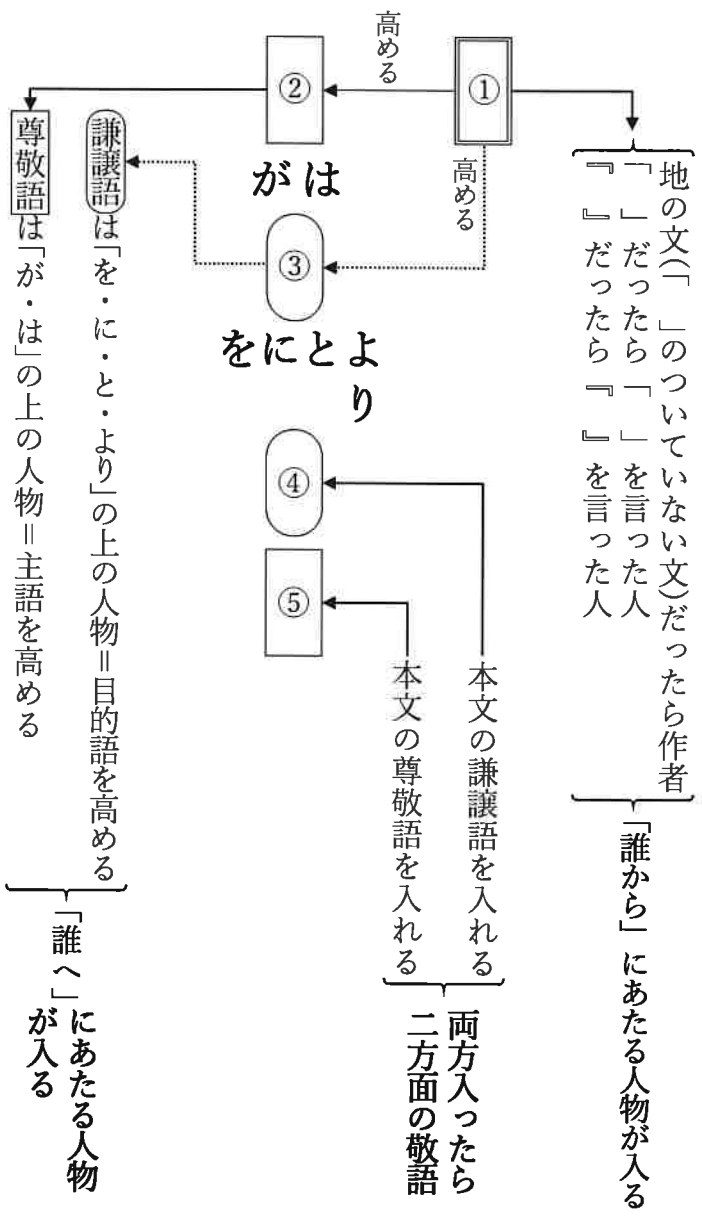
- ③ 絶対敬語：特定の人物にしか使われない敬語。
奏す：「帝（天皇）・上皇・院に」申し上げる（基本的には帝に申し上げる）

啓す：「中宮（皇后）・東宮（皇太子）など帝の親族に」申し上げる（基本的には中宮に申し上げる）

④ 敬意の対象のつかみ方

丁寧語	謙讓語	尊敬語	
話し手(会話文)		作者(地の文)	誰から
聞き手(会話文)・読者(地の文)		動作対象人物(目的語)	誰へ
		動作主体(主語)	

↓左の図を頭に入れておこう

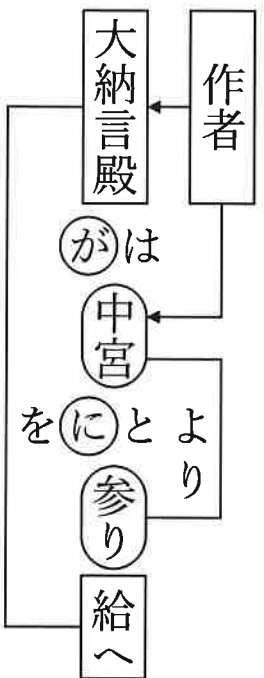


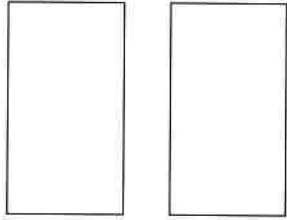
〔例〕大納言殿の参り給へるなりけり。

(大納言殿が〔中宮のところ〕に参上なされたのである。)

※参り…作者が中宮を高める謙讓語

給へ…作者が大納言を高める尊敬語

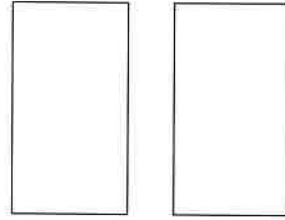
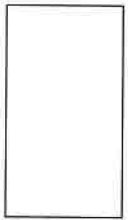
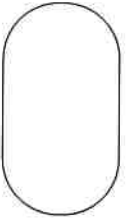




がは



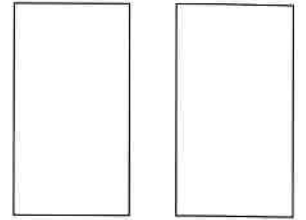
をにとより



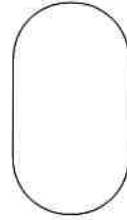
がは



をにとより



がは



をにとより

